

吉野復興大臣の宮城県訪問ぶら下がり会見録
(平成29年9月13日(水) 14:07~14:23 於) 気仙沼市)

1. 発言要旨

こんにちは。昨日から本日にかけて、女川町と気仙沼市を訪問いたしました。

女川町では、夕べ、女川向学館、いわゆる放課後学校をやっている方で、私もいろいろ視察をしましたけど、昨日は、夜に視察をしました。

そして、私は常々被災者と役場、ここが復興を担うわけですけど、その中間に立って被災者と役場をつなぐ中間組織、NPO等々の支援者の方々がいたからここまで復興が早く進んだというふうに思っています。

教育の現場もそうでした。子供たちと学校、いわゆる昼間の学校だけではなくて、この向学館の先生方は、昼間は学校に赴いてチームティーチングをなさっています。そして、夕方から夜にかけて向学館の先生をし、昼間も夜も子供たちと接しております。

大学生、高校生、女川を離れて大学生になっても知った仲間なので、いろんな相談事をしてくれる。これは、私は新しい教育モデルになるのかな、こんな感じをして見てまいりました。一生懸命やっている姿に感動をしたところです。

そして、今朝なんですけど、女川の役場で、町外から支援に来ている方々3人とお話をさせていただきました。

それぞれ素晴らしい方々でございまして、1人は坂本さん。この方は役場の任期付職員をなさっていらして、今は兵庫県からの任期付職員ということで女川町に来ております。

この4年間、あの5mから6mかさ上げをした土地ができてからずっと広報担当で、写真も自分で撮って、この4年間ずっと女川の色々な情報を発信してくれてくれた方でございます。こういう方がいればこそ、きちんと女川の情報を発信できるのかな、こんな思いです。

もう1人は、自分で起業して石けん工場をつくり、そして、石けんのお店、素晴らしい、私も頂きましたけど、この間総理と来たときにも買わせていただきましたけど、本当にアイデアで香りのいい石けんを作っておられる厨さん。厨さんのお話では雇用をつくっていくんだと。特に、女性に、いわゆる東京で学んできた方々もふるさとに帰ってきて、雇用をつくるんだということをおっしゃってございました。そして、そこに対する目鼻もやっと付いてきたと、このようなお話でした。

もう1人はロート製薬から、いわゆる復興支援の部署に配属され、

女川で活動されている阿部さんという方のお話です。

ロート製薬はいわゆる目薬屋さんですけど、薬を使わない健康社会を目指すというのが会社のテーマでありまして、いかに健康をつくっていくか、こういう思いを蕩々と語っていただき、私も感動したわけであります。

また、女川町議会の議長さんは、木村さんという方で82歳です。物すごく元気です。私と同じねずみ年生まれ、私よりも一回り上のねずみ年生まれで、髪の毛もポマード付けているくらい本当に元気で、毎日1万歩歩いている。正に健康のまちづくり、健康こそが元気な町をつくる元になる、こういうお話もしておられました。

そして、次に気仙沼市に参りました。市長さん等の導きで、まずは大島を行ってみたいと。実はこれは小野寺防衛大臣、閣議前の席が私の隣なものですから、気仙沼に行くんだったら、是非大島を見てほしいという強い思いが小野寺大臣にございました。それを受けて今日、訪問をさせていただいたところです。

また、「気仙沼ちゃん」で有名な宿「くりこ」さんで昼食を取らせていただきました。ここで村上さんという男女の方、私は、御夫婦だと思ったんですけど、いや、夫婦じゃないんだと。名字が同じなんだということで、語り部の仕事をなさっている方々と一緒に昼食を取りながら、この大島のすばらしい観光、今度大橋ができるわけありますから、それによって大島全体のすばらしい観光というものを聞きながら昼食を取らせていただきました。

その後、亀山山頂に出向いて、すばらしい360度の風景・景色を見させていただきました。ちょっと私もスマホを撮らせてもらいましたが、海水浴場と環境省が造ったところのこの湾を、上から見るとハート型の海になっているんですね。そういうものも売りに出しながら、大島全体の観光、振興のためにどうあるべきかということを市長さんとともに見させていただいたところです。

以上です。

2. 質疑応答

(問) 亀山から実際に御覧になられて、市長からもリフトの話が出ましたけれども、改めてリフトの再建について、市としてはずっと要望があったと思うんですが、国としてどういうふうに対応されていくのか、今後の見通しがあれば教えてください。

(答) 復興庁の役人も、いっぱいリフトの再建について知恵を出しております。こういう手法もある、また、こういう手法もあるといった形で、私は十分に考えてくれているというふうに考えています。

市長さんとも一緒になってこれから知恵を出して、お互いに納得できる線でこれから検討をしていきたい、このように考えています。まだこれといった、この手法でやるといったことまでは決まっておられません。

(問) 実際に下のウエルカム・ターミナルについては補助が出て、上も多分施設もできます。ただ、それをつなぐという意味では、観光の振興をとということであれば、なおさらこそ、その重要性というのは今回理解がいただけたと思うんですけれども、どうでしょう、その辺りは。

(答) 土井副大臣共々上に上がって、大島の観光の重要性、これは現地を見て把握をしたつもりでございますので、これから市と復興庁と色々な知恵を出して考えていきたいと、このように考えています。

(問) 今、亀山リフトの話がありました。市長さんの方から亀山リフトは被災されましたが災害復旧の対象外という問題があります。その辺を含めて国の方にどのように今は具体的な予定か、改めてお願いします。

(気仙沼市長) この度は、小野寺防衛大臣からの助言もあって、吉野復興大臣にも3度目となる気仙沼訪問を短い期間にさせていただきました。結果、大きく亀山の眺望も見ていただいて、そのすばらしさも御理解いただいたところではあります。

亀山にありましたリフトにつきましては、気仙沼市の施設で被災したものであります。そんな状況の中で、今まで私たちは復興庁さんとともに、復旧・復興、さらには創造的復興へということで、様々な事業を相談しながらさせていただいております。

そんな中で、市の被災施設でまだ復旧に至っていないという状況にあるのが亀山リフトでありますので、このことを含めて大臣には理解をしていただいたと思いますので、観光振興という御言葉も頂きましたので、是非私たちも復興庁さんと更に協議を重ねて、亀山へのアクセス、冬場はリフトだとなかなか厳しい面もあるということで、リフトに限らない補修面的なアクセスの道を、是非近いうちに結論が出るように力を合わせさせていただければなというふうに思ったところであります。

(問) 被災地は今、「風化」ということを非常に心配なさっていると思ひまして、交流人口が非常に少なくなっているところで、観光資源として非常に重要な施設になると思うんですけれども、そこのところは復興大臣としてどういう位置付けで考えていらっしゃるのかというところを教えてください。

(答) まず、三陸道路ができます。これは常磐道などと直結です。まずはその高速道路がきちんとつながるということ。そして、大島

の大橋ができるということ。これは多くの観光客が来る基本的なインフラがそろうということですので、あとは大島のいかに魅力を全世界に伝えていくかということに尽きると思います。

そういう意味のいわゆるアクセス関係のものはきちんと整備がされるということで、特にインバウンド等々も東北地方は日本全国の平均と比べるとかなり少ないです。日本全国が250%の伸びに対して、東北は130%くらいの伸びしかありません。

ある意味ではこれからの伸びしろがあるということですので、仙台空港を拠点にして、平泉と松島とをつなぐバスが出ているんです。これはまだ誰もよく知られていないので、そういう仙台空港発の松島・平泉ルートという巡回バスもこれから出ておりますので、そういうことも知らしめて、インバウンド等もやっていきたい、このように考えています。

(問) 現状だとやっぱりその復旧に関して、復興の予算を使うということはまだそこまでは至らないということでしょうか。

(答) 観光に特化して復興の予算を使っている例は、福島県では3億、これは福島県だけに特化した、いわゆる原発被害を、被災を受けた地域でございますので、復興庁の予算としてはございます。

でも、あとは観光庁の予算でもって、日本全体のかさ上げといいますか、それを図る中での、いかに東北地方を観光客で迎え入れるかということです。

復興庁主催で、観光振興の中で「新しい東北」で、去年は樹氷をモデルにして、スノーモンスターという名前を樹氷に付けて全世界に発信して、インバウンドの客を誘致するというのもやっています。

今年はお酒、日本酒、これをキーワードに、全世界に発信をしていくという、そういう観光を振興するための「新しい東北」、いわゆるこれは復興庁の事業ですけど、そういう事業もやっています。

(問) 亀山リフトの関係なんですが、具体的な予算付け等の知恵について、どのように今の段階で可能性も含めてお考えになられていますか。

(答) はい。今は、この手法もある、あの手法もあると、私がちょっと見ただけで五つくらいの手法がございますので、それ以外の手法がないのかということも含めて、今検討中です。

(以 上)